

特別講義 「楽譜がもつメディア性」

13:30開講 於：益川ホール

～ 若林 暢にささげる ～

フランスの名ピアニスト

リュドミラ・ベルリンスカヤのレクチャーコンサート

若林 暢著：「悪魔のすむ音楽」について

1. 若林 暢「愛奏曲集」よりCD演奏
2. 野平多美（作曲家・音楽評論家）による著書の紹介
3. 小西真央（若林 暢の生徒）が著書に書かれている「ファウスト・ファンタジー」の一部分を演奏し、若林 暢のレッスンで学んだことや、著作の中で示唆されていることを野平と共に解説してゆく。
4. リュドミラ・ベルリンスカヤが語る若林 暢のこと
野平多美のインタビューに応えながら、リュドミラの代表作でもあるスクリャービン：ピアノソナタ「黒ミサ」について語る。
5. リュドミラ・ベルリンスカヤの演奏／スクリャービン：ピアノソナタ第9番 黒ミサ（全曲）
6. リュドミラ・ベルリンスカヤのアンコール演奏をリクエストして終了予定

■プロフィール

リュドミラ・ベルリンスカヤ Ludmila Berlinskaya



ポロディン弦楽4重奏団の高名なチェリスト、V.ベルリンスキを父にもち、幼少のころからショスタコービッチ、ロストロポービッチ、リヒテルなどの巨匠達と室内楽を楽しむ素晴らしい家庭環境で育った。特にリヒテルを生涯の師と仰ぎ、芸術的影響を受けた。13才の時にはロシアで大ヒットした映画に主演で出演するなど多才な才能をもっている。14才でポロディン弦楽4重奏団と共演しピアニストとして活躍。15才の時にはオーケストラとも共演し、17才の時には世界最高峰のヴィオラ奏者、Y.バシュメットとも共演するなど天才振りを発揮し、モスクワ音楽院を優秀な成績で卒業。ロシアを代表するピアニストとしての道を歩み、モスクワ音楽院でも教鞭をとっていたが、やがて演奏活動の場をパリに移しヨーロッパ各地で絶賛される。トップクラスのフェスティバルにも常に招聘されて、パリでもっとも評価の高いピアニストとして活躍する一方、パリ・エコールノルマル音楽院のピアノ科教授として後進の指導にも携わっている。

若林 暢 Nobu Wakabayashi



東京藝術大学附属高校、東京藝術大学、同大学院を経て、ジュリアード音楽院を卒業。1995年「音楽に登場する悪魔」の論文で博士号を取得。1986年ニューヨーク国際芸術家コンクール、モントリオール国際コンクールなどで優勝。ヴィニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールで入賞。最優秀音楽解釈賞、ヘンリック・シェリング賞、ワンダ・ウィルコムスカ賞、ボズナン市長賞などの副賞を全て受賞し、ヘンリック・シェリングからも絶賛される。1987年カーネギーホールでのデビューリサイタルは、ニューヨーク・タイムズ紙でも高い評価を受け、その後はアメリカ、ドイツ、イタリア、スペイン、ポーランド、スイス、オーストリア、中国、韓国など世界各地でソリストとしての演奏活動を続けた。

2016年6月8日に58才という若さで亡くなる。偉大な業績を評価する人々の要望により、2017年ソニー・ミュージックダイレクトのクラシックレーベルG-toneより発売された2枚のCD「愛奏曲集」と「ブラームスヴァイオリンソナタ全集」は度々ビルボードやオリコン週間ランキングに1位と2位のツートップでランクインを果たし、年間ベストセラーのランキングにも、それぞれ1位と2位に選ばれた。

主催：京都大学大学院文学研究科メディア文化学専修